



だより



R7.2.12 Vol.38

#### うちが…

1年生との帰り道。ある子に質問されました。「うちが来年、担任になってほしい先生は誰でしょう?」「…わかった!藤田先生やろ!」「あたりー!」「校長先生じゃダメなん?」「別にいいけど、校長先生は、ゆっくりやけんなあ…。」「がーん(爆泣)」「むしろ「若くないけんなあ。」と言われる方がダメージは少なかった気がします。全ての衰えをたった一言で言い当てられた気がしました。orz

人生の第三コーナー付近に差し掛かり、1年がとても速く過ぎている気がしています。『人は時間という大きな河の流れのほとりに生きている。その流速は変わらないが、歳を取るにつれ、心身が時間の流れについていけなくなる。だから速く過ぎるように感じるのだ』そんなことが書いてあった本のことを思い出しました。私、どちらかと言えばせっかちな方なのですが、人生のゴールまで、むしろゆっくり動く方が楽しみは増えるかもしれませんね。そう慰めています。(筋トレ行こっ)

#### 他者意識

学校の経営目標にも挙げている「他者意識の育成」相手の立場に立って物事を考える力の育成です。先日のドカ雪、真穴地域はほとんど影響ありませんでしたが、市内中心部は交通マヒが起こるほどでした。うちの職員にはスタッドレスタイヤやチェーンの装着を口を酸っぱくして指導しています。なぜか?自己責任で済まないからです。準備を怠り、車がスタックすることが周りにどれだけ迷惑をかけるのか?渋滞の原因になるかもしれない、人身事故を起こすかもしれない。少し考えればすぐ分かることです。

患息はライフラインに関わる仕事をしています。雪の日、不測の事態に備えて会社に泊りでした。そういった見えないところで働いている人たちのおかげで、安全が保たれている私たちの生活です。「まあ、なんとかなる」人生においては、その考えが大切な時も多々ありますが、危機管理においては他者意識においてもノーセンスだと私は感じています。

#### 四方山話真穴 ver. 其の三十八(正義)

芸能界や放送業界でいろいろ問題が起きているようですね。様々な方が私見も述べられています。私は当事者ではないので、述べることはありません。ただその私見の中にこんな言葉があったことが心に残りました。「悪意は罪悪感を伴うので、制御されるが、正義はそれ(罪悪感)がないので暴走する。」これって今の社会の怖さだと強く感じています。携帯電話で誰もが動画や写真の撮影ができるようになった時代、「1億総パパラッチ!」と揶揄された言葉が生まれました。そして SNS 等で誰もが気軽にコメントが残せる時代になると「1億総コメンテーター」などという言葉も耳にするようになりました。

当事者が解決すべき問題をあたかも社会の問題であるかのように錯覚させる今の風潮。根拠のない偏見からの攻撃に中世の「魔女狩り」を感じることもあります。昔から噂や風評、流言の類はいくらでもありましたが、今はネットを介して瞬く間に全国(場合によっては世界)に広がってしまう、そんな時代です。

先日、集会の折、子供たちに「事実でないことは口にしない」という話をしました。相手を思う気持ちであっても、いつの間にかそれは他人を傷つける話になってしまうかもしれない。そんな内容です。実際、私の身の回りでも、その方は風邪をひいていただけなのに、私に話が入ってきたときは「亡くなったらいい」という笑えない冗談のような本当の話がありました。

愉快犯的な物言いは論外ですが、「自分は正義だ!」と信じていても、人、場所、時代によって、それは大きく異なり変化もします。ネット時代を生きていく子供たちには強く意識させておきたいことです。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。